第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オオタカ

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert, 1923)

遠藤孝一（日本オオタカネットワーク、NPO 法人オオタカ保護基金）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：遠藤孝一，2026．オオタカ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 741-747．

Citation: Endo, K., 2026. *Accipiter gentilis fujiyamae* (Swann & Hartert, 1923). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 741-747.

タカ目 Accipitriformes　タカ科 Accipitridae

オオタカ

***Accipiter gentilis fujiyamae* (Swann & Hartert, 1923)**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　①②

基準 A:　VU 未満	基準 B:　―	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
①個体数が減少している。
【判断理由】
北海道十勝平野（面積 1000 km²、調査期間 2009 年－2021 年）、山形県庄内平野（85 km²、2001 年－2021 年）、栃木県那須野ヶ原（100 km²、2001 年－2021 年）、埼玉県東松山（100 km²、2005 年－2021 年）、石川県加賀（100 km²、2007 年－2008 年、2018 年－2021 年）、愛知県尾張（45 km²、2015 年－2021 年）において、オオタカの生息つがい数の変化を調査し、これらのデータを統合して TRIM によりつがい数の変動を解析したところ、つがい数には、有意な減少傾向が認められ（P<0.01）、全体は、2.8％ / 年の減少が認められた。

②生息条件が悪化している。
【判断理由】
2023 年の時点で、栃木県内において、オオタカの営巣地周辺において生息環境の悪化が懸念される開発事案が、道路建設で 3 件、大規模太陽光発電建設で 6 件ある。
全国のアンケート調査に基づく繁殖成績も、2016 年から 2021 年にかけて低下傾向にあり、生息条件の悪化がその原因と考えられる。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

全長はオスで 45～50 cm、メスで 52～57 cm とメスの方がオスより大きい。成鳥では上面は暗青灰色、顔には太くて白い眉斑がある。下面は白色で、胸から腹に黒色の横斑が密にある。日本およびサハリンに分布する。日本では、留鳥または漂鳥として、九州以北で繁殖する。繁殖期は 2 月～7 月、一腹卵数は通常 3～4 卵、巣立ち雛数は 2～3 羽のことが多い。

巣はアカマツ、スギ、モミ、カラマツなどに架ける。おもに小型から中型の鳥類を捕食するが、小型の哺乳類も捕食する。日本全体の個体数は 2005 年では 1,824～2,240 羽と推定されているが、実際はそれよりもかなり多いのではないかと考えられる。一方、生息個体数は 2000 年代前半までは増加し、その後は減少傾向にあると考えられている。都市開

発や道路、ダム、大規模太陽光発電施設の建設など、森林伐採を伴う各種開発によって生息環境が悪化しているところがある。かつては飼育目的の違法捕獲が多発していた時代もあったが、現在では法律の整備などによって沈静化していると考えられる。2017 年 9 月 21 日に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく「国内希少野生動植物種」の指定を解除された。その後の調査から、指定解除によるつがい数の減少や繁殖成績の悪化は認められなかった。しかし、解除から影響が出るまでにはタイムラグがある可能性があること、またつがい数の減少や繁殖成績の低下が続いている可能性があるので、今後も個体数や繁殖成績についてモニタリングしていく必要がある。

基礎情報

【形態】

全長はオスで 45～50 cm、メスで 52～57 cm とメスの方がオスより大きい。成鳥では上面は暗青灰色、顔には太くて白い眉斑がある。下面は白色で、胸から腹に黒色の横斑が密にある。幼鳥では上面は暗褐色、下面は黄褐色で黒褐色の縦斑がある。

【生活史】

日本およびサハリンに分布する。日本では、留鳥または漂鳥として、九州以北で繁殖する。一夫一妻性で、つがい関係は繁殖期間中は維持されるが、非繁殖期には解消ないし希薄になると考えられる。

繁殖期は 2 月～7 月。2～3 月に求愛・造巣し、4 月に産卵、6～7 月に雛が巣立つ。一腹卵数は通常 3～4 卵、巣立ち雛数は 2～3 羽のことが多い。巣はアカマツ、スギ、モミ、カラマツなどの地上 7～20 m ほどの位置に架けられる。

おもにスズメやムクドリなどの小型鳥類から、ハトやカラス、キジといった中型の鳥類を捕食する。また、割合は低いが、ネズミやリス、モグラ、イタチ、ノウサギといった哺乳類も捕食する。

【生息環境】

低地から亜高山帯の森林に広く生息するが、主要な生息地は農耕地や草地など開けた環境と森林が混在する低地から丘陵地である。近年では、都市部の大規模な緑地で繁殖するものもいる。冬期には、河川敷や埋立地など、樹林の少ない環境にも飛来する。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地 【陸域_平地部】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地，市街緑地
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(3) 都市地域

【分布域】

日本およびサハリンに分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

全国鳥類繁殖分布調査では、分布は 1970 年代から 1990 年代にかけて急激に拡大したが、1990 年代から 2010 年代にかけては記録メッシュ数でも、現地調査の地点数でも大きな変化はなかった（植田・植村 2021）。既存調査およびアンケート調査に基づいた繁殖確認あるいは繁殖可能性ありの都道府県は以下の通りである（環境省自然環境局 2005）。北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、静岡、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、和歌山、奈良、大阪、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、徳島、愛媛、佐賀、熊本。

【生息地の現況】

都市開発や道路、ダム、大規模太陽光発電施設の建設など、森林伐採を伴う各種開発によって生息環境が悪化しているところがある。

【個体数の現況】

日本全体の個体数は 1996 年では 1,000 羽以上（小板ほか 1996）、2005 年では 1,824～2,240 羽と推定されている（環境省自然保護局 2005）。推定値の違いは、情報収集が進んだためとされるが、個体数の増加を指摘する意見もある。一方、尾崎ほか（2008）は、生息環境モデルを用いて関東地方とその周辺（静岡県・山梨県・長野県）におけるオオタカの営巣数を推定したところ、2,909 か所（95%信頼限界：1699～5196）の値を得た。これを個体数にすると、5,818 羽（95%信頼限界：3398～10392）となり、信頼限界の下端をとっても関東地方とその周辺には約 3,000 羽が生息することになることから、日本全体のオオタカの生息数は、上述の 2005 年の推定値である 1,824～2,240 個体より、かなり多いのではないかと考えられる。一方、生息個体数は 2000 年代前半までは増加し、その後は減少傾向にあると考えられている（植田ほか 2022）。

存続を脅かす要因

都市開発や道路、ダム、大規模太陽光発電施設の建設など、森林伐採を伴う各種開発によって生息環境が悪化しているところがある。かつては飼育目的の違法捕獲が多発していた時代もあったが（遠藤 1989）、現在では行政や保護団体の普及活動や法律の整備などによって沈静化していると考えられる。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，違法採集
	（現在）	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，発電施設建設

特記事項

オオタカは、2017 年 9 月 21 日に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく「国内希少野生動植物種」の指定を解除された。その後の生息調査から、指定解除によるつがい数の減少や繁殖成績の悪化は認められなかった。しかし、解除から影響がでるまでにはタイムラグがある可能性があること、またつがい数の減少や繁殖成績の低下が続いている可能性があるので、今後も長期にわたり、オオタカの個体数や繁殖成績についてモニタリングしていく必要がある。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第４次 2019：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第４次 2018：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT

第４次 2017：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第４次 2015：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第４次：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第３次：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	NT
第２次：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	VU
第１次：	オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】準絶滅危惧(Nt),【青森県】重要希少野生生物(B ランク),【岩手県】準絶滅危惧,【宮城県】準絶滅危惧(NT),【秋田県】準絶滅危惧(NT),【山形県】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【福島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【茨城県】準絶滅危惧,【栃木県】準絶滅危惧(C ランク),【群馬県】準絶滅危惧(NT),【埼玉県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁・越),【千葉県】要保護生物(C),【東京都（本土部）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【東京都（北多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【東京都（南多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【東京都（西多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【神奈川県】絶滅危惧Ⅱ類(繁殖期)、希少種(非繁殖期),【新潟県】準絶滅危惧(NT),【富山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【石川県】準絶滅危惧(NT),【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類,【山梨県】準絶滅危惧(NT),【長野県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【岐阜県】準絶滅危惧,【静岡県】準絶滅危惧(NT),【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁殖),絶滅危惧Ⅱ類(VU)(越冬),【三重県】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【滋賀県】希少種,【京都府】絶滅危惧種,【大阪府】準絶滅危惧(NT),【兵庫県】B ランク,【奈良県】希少種,【和歌山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【鳥取県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類,【広島県】準絶滅危惧(NT),【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【香川県】準絶滅危惧(NT),【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【高知県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【福岡県】準絶滅危惧(NT),【佐賀県】絶滅危惧Ⅱ類種,【長崎県】準絶滅危惧(NT),【熊本県】準絶滅危惧(NT),【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【宮崎県】準絶滅危惧(NT-r),【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

鳥獣保護管理法，都道府県条例指定種【京都府】

参考文献

- 遠藤孝一，1989．オオタカ保護の現状と問題点．Strix，8: 233-247.
- 遠藤孝一，2008．生態図鑑 オオタカ．バードリサーチニュース，5(2): 4-5.
- 環境省自然保護局，2005．オオタカ保護指針策定調査報告書．環境省，東京.

- 小板正俊・新井真・遠藤孝一・西野一雄・植田睦之・金井裕，1996．アンケート調査によるオオタカの分布と生態．平成 7 年度希少野生動植物種生息状況調査報告書，pp. 53-74．環境庁，東京．
- Natsukawa, H., T. Ichinose and H. Higuchi, 2017. Factors affecting breeding-site selection of Northern Goshawks at two spatial scales in urbanized areas. J Raptor Res, 51: 417-428.
- 尾崎研一・堀江玲子・山浦悠一・遠藤孝一・野中純・中嶋友彦，2008．生息環境モデルによるオオタカの営巣数の広域的予測関東地方とその周辺．保全生態学研究，13: 37-45．
- 植田睦之・植村慎吾，2021．全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年，p. 72，鳥類繁殖分布調査会，府中．
- 植田睦之・遠藤孝一・高橋誠・内田博・平井克亥・今森達也・天野弘朗，2022．オオタカの繁殖状況と国内希少野生動植物種からの解除の影響．Bird Research，18: A99-A107．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Accipiter gentilis fujiyamae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Accipiter gentilis fujiyamae* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland, Urban green area
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Transportation infrastructure construction, Pesticide/Toxic chemical pollution, Power plant construction
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species【Kyoto】.





執筆者:	遠藤孝一（日本オオタカネットワーク、NPO 法人オオタカ保護基金）
Author:	Koichi Endo

公表年月：2026 年 3 月